

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第43週)

(令和8年10月19日～令和8年10月25日)

令和8年10月29日

定点報告(上段:定点当たり／下段:報告数)、全数報告(報告数)		2026年					2025年	2024年
区 分	疾 病 名	40週	41週	42週	43週	合計	合計	合計
定点報告	インフルエンザ	9.00	5.67	7.00	7.33	—	—	—
		27	17	21	22	724	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	3.67	1.67	2.67	1.00	—	—	—
		11	5	8	3	261	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	—	0.50	—	1.00	—	—	—
		0	1	0	2	34	156	309
	咽頭結膜熱	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	9	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	0.50	2.50	1.00	—	—	—
		0	1	5	2	127	243	657
	感染性胃腸炎	1.00	1.00	0.50	1.00	—	—	—
		2	2	1	2	143	430	610
	水痘	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	8	10	6
	手足口病	0.50	0.50	0.50	—	—	—	—
		1	1	1	0	136	15	952
	伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	—	—	0.50	—	—	—	—
		0	0	1	0	21	59	182
	ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	16	4	19
	流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	2	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	4	16	1
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	2.00	1.00	—	—	—	—	—
		2	1	0	0	29	42	16
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	—	2.00	—	1.00	—	—	—
		0	2	0	1	12	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	1.00	—	2.00	—	—	—	—
		1	0	2	0	27	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	42.33	57.33	57.67	51.00	—	—	—
		127	172	173	153	7,203	8849	—
全数報告	腸管出血性大腸菌感染症	0	1	0	0	2	0	1
	レジオネラ症	0	1	0	0	5	5	3

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザの流行が見られます。
--------	-------------------

インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して増加しました。 本県における第43週の定点当たり報告数は9.94と、前週に比べ増加しており引き続き注意が必要な状況です。10代の報告割合が増加傾向です。感染の拡大を防ぐため、普段と体調が異なる場合には出勤や登校を控えるなど、体調管理に留意するとともに、手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。また、ワクチンの早期接種を検討してください。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して減少しました。 基本的な感染対策を徹底し、感染に注意しましょう。
つつが虫病	本県で1例届出がありました。 つつが虫病は、病原微生物を保有するツツガムシ(ダニの一種)に刺された後、1～2週間後に発症します。人から人へは感染しません。主な症状として発熱、発疹、刺し口(刺された部位がカサブタに変化)、頭痛、倦怠感、肝機能障害などがあります。治療が遅れると重症化や、最悪の場合死に至ることもあるため、早期診断・早期治療が重要です。山林や草むら、農耕地に入る機会が多くなる初夏(4～6月)と初冬(10～12月)は注意が必要です。野外作業時は長袖・長ズボン・長靴等を着用して肌の露出を少なくし、作業後は速やかな入浴や着替えを心がけましょう。また気になる症状が現れた場合には、速やかに医療機関(内科、皮膚科など)を受診しましょう。
侵襲性肺炎球菌感染症	本県で1例報告がありました。 侵襲性肺炎球菌感染症は、肺炎球菌が髄液や血液に侵入することで生じる感染症です。小児及び高齢者を中心に飛沫感染により感染し、髄膜炎等を伴う肺炎や、敗血症を生じます。予防にはワクチン接種が有効ですので、特に定期接種対象の方は早期のワクチン接種を推奨します。

インフルエンザの報告数が増加しています。感染の拡大を防ぐため基本的な感染対策の徹底をお願いします。

- ・咳やくしゃみ等の症状があるときは、マスクを着用したり、鼻や口をティッシュ等で覆うなど、他の人への感染拡大防止に努めましょう。
- ・流水・石けんによる手洗いは手指など体についたウイルスを除去するために有効な方法です。こまめな手洗いに努めましょう。
- ・室内ではこまめに換気をしましょう。窓開けによる換気は、対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると効果的な換気ができます。
- ・普段と体調が異なる場合には、出勤や登校を控えるなどの体調管理に留意してください。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第43号